

東京五輪で引退の山本幸平さん

MTB+富士見 活動へ広がる夢



東京五輪の自転車マウンテンバイク(MTB)男子に出場した山本幸平さん(36)は松本市に31日、練習拠点としてきた富士見町の富士見パノラマリゾートで今後の活動について語った。県内で後進を育成しながら、昨年5月に設立した「ヤマモトアスリートファーム」の拠点を富士見に置き、食やスポーツを通じた健康づくりなどに力を入れるとした。

4大会連続で五輪に出場した山本さんは、東京五輪での引退を表明していた。最後の舞台として挑んだ五輪直前には2カ月ほど、入笠山の標高約1800メートル地点に設けた町内の拠点で高地トレーニングをしてきた。同リゾートの多様なコースでトレーニングで

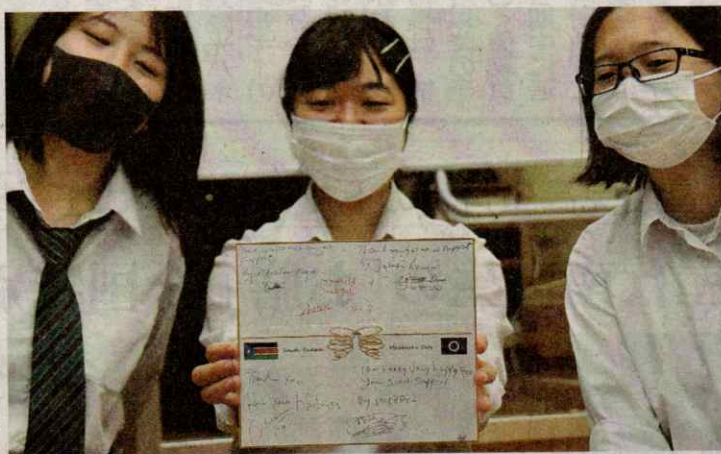
東京五輪で使った自転車と山本さん

きることや、町の気候が魅力だったという。

ファームは本年度中の法人化を目指し、町を拠点にMTBのイベントやスクールを開く予定。健康とスポーツ、食アスリートから趣味のサイクリストまでが楽しめる。子、子どもから高齢者まで地元住民への魅力発信も目標

トマトや動画贈ってくれた富士見高生に

南スーダン選手団 感謝の色紙



南スーダン選手団から届いた色紙

富士見町の富士見高校に、東京五輪を終えて帰国した南スーダンの陸上選手団から直筆で感謝の思いをつづった色紙が届いた。同校園芸科野菜・食品コースは昨年度から選

対象に自転車を使った健康づくりを行って地域活性化にもつなげたいという。連携できる企業などを探し「活動の幅を広げたい」としている。

北海道出身の山本さんは、信州には「世界級の山々と平たん道の両方があり、トックリストまでが楽しめる」。地元住民への魅力発信も目標

手団にトマトを贈るなどして交流。五輪後には動画のメッセージも贈った。31日、同校で交流に関わった3年生に色紙が紹介された。

色紙は8月30日、事前キャンプ地の前橋市を通じて同校に届いた。男子1500メートルに出場したグエム・アブラハム・マジック・マテット選手(22)ら5人が英語で「支援をありがとう」とのメッセージなどを寄せている。

本年度の3年生は新型コロナウイルスの影響で選手団との直接交流はできなかったが、トマトや手紙などを贈ってきた。色紙を見た内山葉耶さん(17)は「トマトや動画が選手に届いたことに感激した。こちらこそ『ありがとう』と言いたい」と喜んでいた。